

## 「ラグビー部」

卒業生五人を送り出した我々は、部員も少ない中でいろいろと苦慮した点もあるが、一同伝統のあるラグビー部の再興に火と燃える気魄で、新春の合宿をはじめとして練習に励んだ。今ここに、この一年間を顧みてその戦跡をたどって見ることにする。

○盛岡市民体育大会（四月二十六、二十九日  
於黄金ラグビー場）

第一回戦盛岡一高と対戦

本校	24			
	18	6	1	0
	3	0		
	3 盛岡一高			

全員よく頑張り決勝に進む。決勝は宿敵盛工と対戦す。

本校	3			
	3	0	1	6
	6	6		
	12 盛工			

我校は練習がたりないため盛工の重量FWの下に敗れた。

○高体連（六月七、八、九日）  
於黄金ラグビー場

第一回戦、水沢高校と対戦

本校	8	0	1	0	
	8	1	0	0	0
					水沢

レギュラーが二人も今大会に出場が出来なくなつてチーム・ワークがとれなく、前半意外に苦戦したが後半敵のTBセンターがボールをハンプルしたのを鷹嘴が飛び込んでトライこれでみんなが元気を取りもどし二回戦に勝ち進む。

第二回戦盛岡農業高と対戦

本校	41	15	1	0	
	26	1	0	0	0
					盛農

対盛農戦は今年初めてで選手一同元氣よく対戦した。これも41対0で一蹴して決勝に進む決勝黒沢尻工業と対戦

本校	3	0	1	6	
	3	1	10	6	16
					黒工

試合開始のゴールライン迄再三せまりながらもトライをする事が出来なく逆に敵にトライを許してしまった。後半十二分敵ゴール前でペナルティキックを得、鈴木がゴールしたが16対3で破れた。

我々は優勝を目指して、又も基礎から猛練習を始めた。そして次の県民体育大会、全国大会へと運命を賭けた。

夏休み、やがて夏期合宿、選手一同お金を犠牲にして鶯宿にて、大学の強豪である日大と全国高校ラグビー界の第一人者保善高と合宿を行う。起床四時、ロング・ランニング、練習、掃除、朝食は九時半、その後は自由時間、午後は二時半より六時半迄猛練習。日大及び保善高校とは再度試合も行い、技術的にも大きな収穫であったと思われる。ここに保善高校との試合結果を記す。

本校	3	0	1	9	
	3	1	24	9	33
					保善

○十四回県民体育大会予選兼県民体育大会（八月二十九日～三十一日）  
於黄金ラグビー場

第一戦 盛岡工業と対戦

本校	0	0	1	0	
	0	1	12	0	12
					盛工

アア、無念、又してもやられる。前半互格の戦いで0対0の均衡が破れなかった。しかし我校に不運がおとずれた。二十一分長谷川がボールを持って突進すると敵のタックルに合

い足首を骨折、気丈にも立ち上って戦列に参加しようとしたがだめだった。二十四分我軍は二十五ヤードライン上にスクラム、盛工にボールが出た。ハーフ、スタンドオフへとボ

ールが渡り敵ウィングが右すみにトライする後半に入り十四人で精一ぱい頑張ったが再び敗れた。

○第四十回全国ラグビー選手権大会岩手県予選（十一月十五日～十六日於）  
黄金ラグビー場

第一回戦 黒沢尻工業と対戦

本校	0	0	1	6	
	0	1	9	6	15
					黒工

ああ、何という不運だ。夢にまで見た「大阪西の宮」への宿願もついに去った。この月の黄金ラグビー場は朝から豪雨でグラウンドは、靴を没する水溜が多く最悪のコンディションであったが試合は進められた。黒工の重量のあるFWに押され、策のほどこすこともなく破れた。今我々は卒業の日を間近にし春以来の試合や練習の苦しかった当時の事が色々と追憶される。優勝の栄冠も得ず去ることは全くさびしい思いである。しかしいつの日か後輩諸君によって果される事を、信じながら我等は去って行く。最後に我々をこれまで育ててくれた戸嶋先生諸先輩に深く感謝致します。

（鷹嘴記）

〔今年の陣容〕

部長兼監督

戸嶋

正夫

主

将

鷹嘴

章

〔FW〕

藤村

満②

福島

裕也②

村木

哲夫③

佐藤

勝彦②

藤沢

喜蔵③

吉崎寛

四郎③

村井健二郎②

鷹嘴

章③

〔HB〕

小川洋一郎③

鈴木

輝紀③

〔TB〕

赤沢 昭二②

米決

房男③

長谷川哲吾②

佐々木靖則②

〔FB〕

中村 義男③

工藤 正則②

〔補〕

佐々木忠男②

沢口 和雄②

玉山 耕士①

佐藤 昭宏①

宮崎 昇①

飯高 勲①